

R5 年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会実施報告書⑥

共催：長崎市医師会・長崎市

- 目的** ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進
②顔の見える関係づくり・多職種連携強化

対象者 医療・介護等専門職のうち多職種チーム化に登録いただいている方
(医師・歯科医師・薬剤師・訪問看護師・栄養士・地域包括支援センター・在宅支援リハビリセンター・包括ケアまちなかラウンジ・市職員)

開催日時等

| 日時 | 会場 | 対象地域包括支援センターエリア |
|------------------------------|---------|-----------------|
| ⑧ R5 年 7 月 6 日(木)19:00～20:30 | 平和会館ホール | 緑が丘/岩屋/滑石・横尾 |

内容

1. 開会挨拶

2. 講話

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| (1)元気うちから手帳について | 長崎市福祉部次長 渋谷 浩司 |
| (2)長崎市医師会版 わたしの思いについて | 長崎市医師会 理事 土屋 知洋 |
| (3)ACP について～救急医の立場から | 長崎市医師会 理事 早川 航一 |
| (4)救急現場における DNAR 対応 | 北消防署警防2課 川上 秀夫 |

3. 意見交換会

テーマ 「ACP について自身の立場でどのようなことに取り組んでいるのか」
～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～



参加者数

(人)

| | R5 年 7 月 6 日 平和会館ホール | |
|--------------|-------------------------|----|
| 医師 | | 12 |
| 歯科医師 | | 4 |
| 薬剤師 | | 6 |
| 訪問看護師 | | 1 |
| 管理栄養士 | | 2 |
| 主任ケアマネジャー | | 6 |
| 在宅支援リハビリセンター | | 4 |
| 包括ケアまちなかラウンジ | | 3 |
| 地域包括支援センター | | 10 |
| 医師会事務局 | | 2 |
| 行政 | | 8 |
| 計 | | 58 |

意見交換でのご意見(一部抜粋)

テーマ 「ACPについて自身の立場でどのようなことに取り組んでいるのか」

～工夫していること・難しいと感じること・悩み・事例など～

ACPについて

- ・外来だと家族とも会えず、コミュニケーションがゆっくり取れない。在宅医療の方が中心になるのが現実。(医師)
- ・入院してくる患者は意思疎通ができない方が多く、“家族がどうしたいか”ということが前に出ている。(看護師)
- ・何回も話す機会が必要。
- ・緊急時の医療処置に行きがちで、本人の思いに視点が行きにくいのが悩み。(ケアマネ)
- ・地域に戻るとき、“これからどう食べるか”について話しをしている。(栄養士)
- ・みんなの興味のある話から進めていくようにしている。(包括)
- ・“わたしの思い”は入院時、体調を崩したときに取り入れている。(医師)
- ・リハビリを行うなかで、患者さんや利用者さんとの会話の中で、その人の生き方をつかむことが多い(作業療法士)
- ・当直の医師は病院を離れられないので、施設からの看取りの連絡が入った時は、医師会と病院でチームを作り対応している病院もある(医師)
- 意思を主張できる人は良いが、できない人もいるので思いを汲み取る必要がある。(医師)
- ・福祉施設で講習をするなかで、呼吸器をつけるか等を話す際に、手帳や ACP について話ができれば。(医師)
- ・子どものために“いのちの授業”をしているのに、ACP の授業はないのか。しても良いと思う(ケアマネ)
- ・小中学生向けに手帳や ACP を普及し考えてもらう機会が必要

元気なうちから手帳について

- ・手帳を出すタイミングが難しい(ケアマネ)
- ・手帳のことよく知らなかった。もっと身近に気楽に手にできないか(ケアマネ)
- ・まず、自分たちで書いてみようとしたが、1/3 程度しか書けなかった。(ケアマネ)
- ・介護のこと、お金のことなど頭の中を整理するために手帳を渡している。(包括)
- ・65歳以上になったら手帳を書くようにしたい！
- ・チェックリストに“元気なうちから手帳”“わたしの思い”を渡したという項目があれば普及するのでは。(医師)
- ・ある年齢の方に市から手帳が送られてくる、救急隊が搬送した〇歳以上の人に渡す、のも良いのでは。(医師)
- ・救急から転院、退院する際に手帳を紹介し家族に渡し、考えるきっかけにできないか。



情報共有について

- ・みんなでやりとりする中で、その患者さんの大切にしているものが分かり良かった。その思いを多職種の関係者で共有できたので、思いを叶える支援ができた。(医師)
- ・民生委員に“わたしの思い”、“元気なうちから手帳”の周知をすると良い。
- ・カンファで、主治医を交えて会議を開催できるよう、本人の希望を叶えるための話し合いをしている(理学療法士)

<意見交換の様子>

